



Sagrada Familia - 聖家族 -

# サグラダ ファミリア

2026年2月8日号

発行：カトリック水戸教会 広報部

## 【水戸教会総会】新年度の水戸教会人事・昨年度をふまえた監事提起

2月1日、2026年度カトリック水戸教会  
信者総会が開かれました。新年度の人事は  
次の通りです(順不同・敬称略。○は新任)。

●主任司祭：ペトルス・アド・ベララウエ

(ルスニ) 神父

●シスター代表：シスター今田 恵子

●監事：○○○○、○

●執行部(代表)：○

(副)：○○○○、○

●典礼部長：○○○○

●葬儀部長：○○○○

●総務部長：○○○○

【東地区連絡員】○○○○

【西地区連絡員】○

【南地区連絡員】○○○○、○

【北地区連絡員】○

●広報部長：○○○○

●福祉部長：○○○○

●育成部長：○○○○

●国際部長：○○○○

●財務部長：○○○○

●施設部長：○

●県信徒使徒職協議会委員：○○○○

●県女性の会：○○○○

●墓地管理委員会：○

■監事提起

また、昨年度の活動と会計の全般を監査し  
た上での監事提起は次のようなものでした。

- 2025聖年(希望の巡礼者)にあたり、  
茨城県巡礼教会として司祭、シスター、  
役員のご尽力により、他教会から多くの  
巡礼者を迎えられた事を感謝致します。
- 1) 多くの多国籍の方が参加する教会となり、  
信者会に参加することで、活力ある  
組織になる事を望みます。
  - 2) 教会広報誌(サグラダファミリア)の  
発刊が再開され、教会活動の理解が深め  
られ、奉仕活動の活性化が図られる事を  
望みます。
  - 3) 教会の老朽化にともない、維持管理  
による費用を建設資金の一部切り崩しな  
がら運用している現状を受け止め、今後  
の対応について議論が深まればと考  
えます。

2025年度監事：○○○○ ○○○○

特に3)に関連して、教会の維持管理費用  
のための定額献金の創設などの提案が出され  
ました。今の聖堂はこの秋で献堂72年、維持管  
理はますます重要な課題になっています。

み と きょうかい そうかい しんねん ど かつどうけいかく  
**【水戸教会総会】新年度の活動計画** (さくねん ど かつどうほうこく けっさん しんねん ど よさん そうかい しりょうさんしょう  
 (昨年度活動報告・決算、新年度予算は総会資料参照))



かつどうけいかく ようし  
**■活動計画（要旨）**

み と きょうかい  
**○水戸教会**

ひ つづ きやくかいせい けんとう げんあん  
 引き続き規約改正について検討、原案を  
 こうじ ことし せい ねん  
 公示。今年は聖フランシスコ年（アシジの  
 せい ぼつご ねん み と きょうかい そうりつ  
 聖フランシスコ没後800年）、水戸教会創立  
 ねん せい かぞく ひ ふく ぎょうじ けんとう  
 130年。聖家族の日も含めて行事を検討。

てんれいぶ  
**○典礼部**

ひ つづ まな ふか よ てんれい  
 引き続き学びを深め、良い典礼となるよう  
 じゅんび かいかわむらしんぞう  
 準備。2/28・3/1にはイエズス会川村信三  
 しんぶさま まね しじゅんせつもくそうかい よてい  
 神父様をお招きして、四旬節黙想会を予定。  
 てんれいほうししゃ とく た じしやくせい ちゅうりよく  
 典礼奉仕者、特に足りない侍者育成に注力。

けっこん いんかい げんざい けん けっこんしきもう こ  
**結婚委員会**：現在2件の結婚式申し込み（2  
 くみ かたがた しんぶさま  
 組ともフィリピンの方々）。ルスニー神父様や

○○○○さんと相談しながら進めていきたい。

そうぎぶ  
**○葬儀部**

さいきん たこくせき かたがた そうぎ ぞうか  
 最近、多国籍の方々の葬儀も増加。フィリ  
 ピン、ベトナム、インドネシアの方々にも  
 そうぎぶいん たいおう じゅんび  
 葬儀部員になってもらい、対応を準備。

そうむぶ  
**○総務部**

ち くれんらくいん とお みなさま きょうりよく ほうし  
 地区連絡員を通した皆様の協力と奉仕に  
 きょうかい ぎょうじ すず きょうかい かんきょう  
 より教会の行事が進められ教会の環境が  
 ととの じっかん たこくせき みなさま  
 整えられていると実感。多国籍の皆様とさら  
 こうりゆう ふか かつどう わ ひる  
 に交流を深め、活動の輪が広がることを期待。

ちくかい  
**【地区会】**

ひがしちく さくねんどうよう かつどう よてい かつどう  
**東地区**：昨年同様の活動を予定。活動できる  
 メンバーは限られている。教会に来られない  
 かた つな わか しんじゃ かたがた きょうかい あし  
 方との繋がりや、若い信者の方々が教会に足  
 はこ こと きょうかい いじ  
 を運んでくれる事が、教会の維持のためにも  
 たいせつ こうれいか きょうかい こうつうしゅだんどう かだい  
 大切。高齢化で教会への交通手段等の課題も。

にしちく うけつけ そうじとうばん ちくかい  
**西地区**：ミサ受付、掃除当番など、地区会の  
 ぎお しゅくしゅく おこな ちくれんらくいん か  
 義務を粛々と行う。地区連絡員が変わるの  
 であたら なが おおきること きたい  
 で、新しい流れが起きることを期待。

みなみちく かき そうじ うけつけ  
**南地区**：限られたメンバーで掃除・受付など  
 とうばん きょうりよく おこな  
 の当番、パーティーへの協力を行う。

きたちく うけつけ そうじ おこな  
**北地区**：ミサの受付、掃除などを行う。パー  
 ティー担当についてはこれから考えていく。

こうほうぶ  
**○広報部**

まいつき てんれい よていひょう さくせい  
 毎月の典礼予定表を作成。サグラダファミ  
 リアの発行も継続。

ふくしぶ  
**○福祉部**

しよくりょうしえん ひ つづ はん ていきょう  
 1. 食糧支援 引き続きご飯パックの提供  
 こわ さぎょう はなし おこな  
 とパンの小分け作業、お話を 行う。キリ  
 きょうかい かたがた しよくりょうしえん う  
 ストの教会の方々や食糧支援を受ける  
 かたがた こうりゆう とお たようせい ふ  
 方々との交流を通して多様性に触れるよ  
 きかい わか せだい さんか かんげい  
 い機会。若い世代の参加を歓迎。

けんきんあつ はは ひ  
 2. 献金集め 母の日やアドベントなどで、  
 はばな けんきんあつ ひ つづ じっし  
 鉢花による献金集めを引き続き実施。 ☑

ふるきってあつ ふるきってどう  
 3. 古切手集め 古切手等（プリペイドカード、

葉書、ベルマークも可)を集めカリタスへ  
送る。不要な古切手等は、信徒会館入口脇  
に置いてある収集箱に。

4. 活動メンバー募集 活動を維持・発展さ  
せるため次の世代の活動メンバーを募集。

## ○育成部

初聖体は1/11から案内開始。オータム

スクールは日程調整予定。子じかクラスは  
定着、年齢別に2つに分けることも考慮。

ボーイスカウトの育成団体はカトリック

水戸教会。小学1・2年生が少ないので、  
教会・聖母幼稚園の協力で増やしたい。

例年の内容で活動を行うが、ミサに与るこ  
とも計画。教会・聖母幼稚園の施設・友部修  
道院を使用。8月、日本ジャンボリーに参加。

## ○国際部

多国籍典礼(外国語ミサ)奉仕を中心活動

として実施。英語ミサに与かる信者数は多  
国籍に渡り増加。子供たちによる侍者奉仕も多  
いが、〇〇さんご夫妻の大きなご負担で成立  
している現状。

英語による広報活動も継続実施。2026年の

マリアンフェスティバルは茨城県がホスト。  
皆様のサポートを。

## ○財務部

活動報告通り、月例献金(教会維持費)の

減少傾向が継続。周知に取り組む。東門

拡張工事の特別献金へのご協力感謝。今後

も修理修繕箇所が発生すると思われ、ご協  
力を。

## ○施設部

雨樋・雨漏り・エアコンなどのメンテナン  
ス予想。マリア像周りの整備を皆様の協力  
で実現したい。教会は皆さまの家、ご意見、  
ご協力を。



## ○使徒職協議会

茨城ブロックとしてさいたま教区の一員

の役割を果たし、情報共有によって各小

教区の活性化を図る。青少年の育成、県下

の教会の人々の交わりの場となる「家族の日」

を企画・実行。

## ○県女性の会

2月22日、友部修道院で無料医療相談会

(お弁当、衣料、食料品配布担当)。3月14

日、県の女性の会総会・シュガレ神父様講演

会。5月27日・28日、日本カトリック女性団

体連盟(日カ連)第52回熊本総会。県女性の

会の修養会や講演会は男性も大歓迎。

## ○墓地管理委員会

早期にマリア像建立事業を完遂する。設

置場所のレンガに寄付者の名前と祈りの言葉

を書き込む奉納の案を検討中(春季墓地ミ

サで見本提示)。2026年度墓地ミサ予定(変更

あり)は春季4/25(土) 秋季11/7(土)。

# 【響く平和のメッセージ】アッシジの聖フランシスコ没後800年



小鳥に説教する聖フランシスコ（ジョット画）

1月16日、教皇庁内赦院は、教皇レオ十四世が2026年1月10日～2027年1月10日を、アッシジの聖フランシスコ没後800年を記念する「聖フランシスコ年」とすることを発表、同

期間に全免償を与えるという『アッシジの聖フランシスコ没後800年の特別聖年に与えられる免償に関する教令』を公布しました。

教皇様は同教令に先だち、フランシスコ会家族総長へあてた手紙で「聖フランシスコの平和のメッセージが現代の教会と社会に

深く響き渡ることを願う」とし、「太陽を『兄弟』と、月を『姉妹』と呼び、すべての被造物の中に神の美の映しを見いだすフランシスコは、平和が被造物の家族全体に広がらなければならないことをわたしたちに思い起こさせます。この洞察は、わたしたちがともに暮らす家が収奪によって脅かされ、うめいている現代にあって、とくに緊急性をもって響き渡ります。神との平和、人間どうしの平和、被造物との平和は、世界の和解への唯一の呼びかけの互いに切り離すことのできない次元です」と「平和」について語られています。

※翻訳はカトリック中央協議会による。

※くわしくはこちら（教令と教皇様の手紙の日本語訳が読めます）→



## 【典礼部だより】2月の典礼暦から～灰の水曜日／四旬節について～

2月18日は灰の水曜日、四旬節の始まりです。わたしたちはイエス様が宣教生活に入られる前に砂漠で40日（四旬）にわたって断食をされた（マタイ4・2、マルコ1・13、ルカ4・2）ことになり、この期間の回心と罪の償いによって、主のご復活をふさわしく迎える準備をします。

初代教会のころ、いったん教会から離れてしまった人が戻ってくるとき、公の回心のしるしとして粗布をまとい、灰をかぶって四旬節を過ごすということが行われていました。粗布と灰は、聖書によく出てくる断食や回心のシンボルです（例えばヨシュア7・6、ヨナ3・6、マタイ11・21）。この「灰をかぶる回心のかたち」が、1091年のベネヴェント教会会議での教令で、聖職者も信徒も全員が灰を受ける「灰の式」となりました。

第二バチカン公会議『典礼憲章』の109条に「四旬節の二重の性格【中略】すなわち、とくに洗礼の記念または準備を通して、そして悔い改めを通して、信者は神のこばをいっそう熱心に聞き、祈りに励んで、過越の神秘を祝うために備えるのである」とあるように、四旬節は洗礼の準備期間としての意味もあります。そもそも初代教会において、復活徹夜祭に洗礼を受けるひとびと、まいにちきょうかいあつこうわをききせつせいつと人々が毎日教会に集まり、講話を聞き、節制に努めていた習慣こそ、今の四旬節のルーツです。四旬節の聖書朗読や典礼は洗礼志願者のための教育に焦点を当てたものとなっています。すでに洗礼を受けた人にとっても、信仰生活のスタート地点をふり返る良い機会だと言えます。

典礼部／〇〇〇〇 監修：ルスニ神父・シスター今田

サグラダ・ファミリアへの記事掲載のご要望は、広報部（info@catholic-mito.com）まで。広報部／〇〇〇〇